

新宮山彦ぐるーぷ第2041回

深仙宿避難小屋の整備

◇実施日；2019年9月6（金） 晴時々曇り

◇参加者…梶野照雄

（1名）

深仙宿避難小屋のドアが開かないという情報が2件続けて寄せられた。1件目は大阪わらじの会からで、2件目は香精水を汲みに登った聖護院の若手からだった。2件目はドアを2〜3回蹴ったら開いたが、金具が壊れているかもしれないということだった。

9月の2週続けての連休を控えているため、早急に確認と修理が必要と考え、台風の接近前に向かうことにした。



登山開始



熊野修験サポート隊



深仙宿に到着

当日は台風15号の影響か、風速5mほどの東風が吹いて、稜線は殆ど汗をかくことなく歩くことが出来た。古田の森南側で、降りてきた熊野修験のサポートの5名と出会う。少し話をしたが、川島さん急死についてもご存じで、今日は新宮に帰って明日は和佐又へ女性を迎えに行く、と話された。

古田の森前後と千丈平から深仙宿までの登山道は、春に刈った笹が50cm近く伸びて足元が見えなくなっていた。

前日の雨で笹に露が残っていて、ズボンのひざ上まで濡れて深仙宿に着いた。



金具は壊れていなかった

窓の錠を取り外す

小屋ドアの掛金を確認するが、少し曲がっているだけで損傷はなかった。窓の錠はきつちりと閉じられていた。

この窓を取り付けたとき、窓から手を伸ばせば内側のロックは外せるとの触れ込みであったが、当時から「窓の錠を掛けられたら外からはどうしようもないな」と思っていた。

その為今回は思い切って窓の錠を外した。強い風で窓が開く可能性はあるが、外から自由に開けることが出来るので、ドア内側のロックが解除できないということは無くなった。



ドアを上にあげて取り付け直し

取手を追加

ドアがその重さで下に下がって、土間コンクリートに接触、全開にならない状態になっていた。2年ほど前にコンクリートを割って開くようにしたのだが、また下がってきたようだ。

頂番のネジを外して、小屋の南側にあつた古いドアサッシを分解して3cm位の厚さの一本を持ってきた。これをドアの下に挟み、サッシの厚さだけ持ち上げた状態で再びネジ止めする。これでドアは90度まで全開するようになった。ドアを開けると小屋内の明るさが増し、囲炉裏を使った時の煙の排出も多少良くなるだろう。

ドア内側に大きめのハンドルを取り付け、掛金の位置も変更した。後片付けをしていると、行者姿の7〜8名が灌頂堂で勤行を始めた。聖護院の行者で、今日は弥山から前鬼まで、明日の前鬼での行事に

加わるようだ。



聖護院の一行



笹で隠れた根を露出



午後1時半過ぎに下山を始める。今日は鋸しか持ってこなかったが、千丈平までの笹を切りながらゆっくり登る。来るときに滑って倒れそうになったところがあり、木の根や岩が隠れている所だけに絞った。鋸で切りながらなので、千丈平まで1時間半ほどかかった。千丈平から登山口までには、新たな倒木が7本あった。昨年の秋に障害となっていた倒木は全て切除したが、今回確認できた倒木は枯れたものが殆どで、昨秋に「これは切っておくほうがいいかな」と思ったものも含まれていた。台風シーズンが終わった10月以降に倒木の処理と笹刈りを計画したいと思う。登山口に近いところで地面に落ちていた標識を杭にネジ止めする。

午後5時過ぎに登山口に戻り、砂の荷揚げに感謝する看板を取り外した。

(記・梶野)



落ちていた標識を取り付け



砂荷揚げのお礼看板を撤去



行動タイム

登山口 09:20 → 10:05 不動木屋登山道分岐 → 10:55 古田の森 → 11:34 千丈平 → 12:15 深仙宿 13:35 → 14:55 千丈平 → 15:41 古田の森 → 16:11 不動木屋登山道分岐 → 17:08 登山口